

ま え が き

近年、社会の変動が激しく、予測困難な時代と言われています。このような中、令和4年中教審答申では、「教師自らが問いを立て実践を積み重ね、振り返り、次につなげていく探究的な学びを、研修実施者及び教師自らがデザインしていくことが必要になる。」と示されています。さらに、「環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続け、子供一人一人の学びを最大限に引き出す役割を果たし、子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている教師が、一人でも多く教壇に立つことを期待する。」など、「新たな教師の学びの姿」の実現に向けた研修の充実が求められています。

本県における研修員制度は、昭和50年度に始まり、昨年度までに修了した研修員は延べ602名に上ります。本研修での学びを経験した各教員は、各学校・各地方の中核的な存在として活躍し、本県教育の充実・発展に大きく寄与しています。

本年度の研修員研修においても、本県が策定した「教員としての資質の向上に関する指標」に基づいた修養を土台とし、今日的教育課題の解決を図るべく研究を行い、その成果を広く学校現場に還元することを目的として実施しました。

研修員によるこの1年間にわたる研究と修養の成果の一端を「令和6年度研修員研究集録（第50集）」として作成しました。研究成果については、本年1月31日に開催した令和6年度和歌山県教育センター学びの丘研究報告会において報告したところです。各学校・各地方においては、本研究集録とともに、当センターのウェブページに掲載している資料も併せて、これからの教育実践の参考として活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、本年度研修員の研修に際して、御支援・御協力をいただきました学校並びに関係教育機関の方々に、心からお礼を申し上げます。

令和7年3月

和歌山県教育センター学びの丘
所 長 福 田 孝